

あきらめないがん治療により
患者に希望を抱かせる医師

多岐にわたる手段で患者に最適な治療を行う



がんを患った時、
絶望してただ最期を待つのではなく、
希望を抱くことが回復の可能性に繋がります

医療法人社団ケーイーふるたクリニック

院長 古田 一徳

健康寿命延伸についての周知が進む昨今。そんな時勢に沿った「元気に年を重ねることをサポートする」をビジョンに掲げるのが、医療法人社団ケーイーふるたクリニックだ。院長の古田一徳医師は、長く北里大学病院消化器外科に准教授として務め、多くのがん治療に取り組んで来た信頼の医師である。

「まず標準治療を受けることを推奨しています。しかし、標準治療の継続ができなくなった方にも、諦めて欲しくない。希望を持って治療に臨んでほしいのです」

こう語る古田院長が行う治療、そして自身が経験した病についてなど、様々なお話を伺った。

大病院で長年がんの治療に携わる

患者を最期まで診療し最新治療を届けるために独立

24年もの間、北里大学病院で活躍した古田院長。肝臓、胆嚢、膵臓を中心とした消化器外科を専門とし、数々のがんの手術、放射線治療、抗がん剤治療などに携わった。

「半分ほどの年月は外部へ出ており、長野、新潟、福島など国内に加え、ドイツのベルリンの大学でも勉強しました。色々な疾患の患者様と出会ってきたことが、今でも糧になっています」

准教授として務め、教授への推薦も出ていたほど大学病院に貢献して来た古田院長。それでも開業に踏み切ったのは、手術だけががん治療に限界を感じていたためだった。

「手術が大好きで、大学病院の方々との関係も良好でしたが、最期まで患者様を診ることができる、様々な治療を実践したいという気持ちが優りました。後悔は全くありません」

こうして2010年、神奈川県川崎市にふるたクリニックを開業。開業当初から「がん患者様の家族が、仕事を休まず付き添えるように」と土日も開院し、患者を慮った診療体制を続けている。

2013年には、メデイカルブランチ表参道を開業。「都内から川崎まで健康維持の点滴のために通っている方々がいました。その方々に、『都内にも点滴できるクリニックがあつたら良いのに』とよく言われており、ニーズに応えた形です」

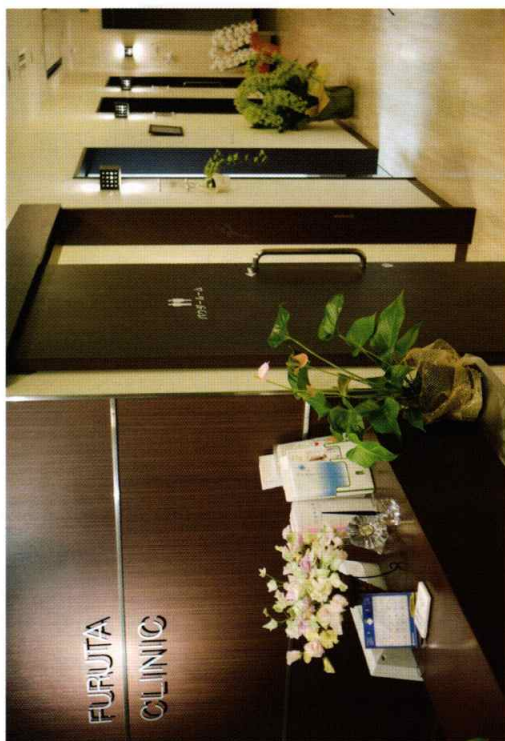
両院とも直々に診療を行いながら、大学病院の肝移植外来でも月2回の診察を担当しているという古田院長。「自費診療は日進月歩、日々更新されて行きます。新しい治療法を他者と共有し続けるのは難しいため他の先生に任せる難しさがあります。私が責任を持って、できる限りの患者様を診療しています」

保険診療を受けられなくなっても「諦めたくないがん患者様のために」 副作用が少ない様々な方法を取り揃える

同院の三本柱は「がん治療」、「適切で精密な検査」、「エイジングケア」。がん治療については手術、放射線、抗がん剤などの、「保険診療（標準治療）」は可能な範囲で受けられた方がいい、というのが古田院長の方針だ。「しかし、副作用が強くて標準治療を継続できない方、標準治療の効果が薄く緩和ケアへの移行を勧められた方、3カ月や半年といった余命宣告を受けて治療方法がこれ以上ないと言われた方には自費診療も提案しています」

同院で行う自費診療は点滴・注射療法が中心。がんの予防や美容アンチエイジングにも効果があるとされる「高濃度ビタミンC点滴」は、副作用がないため身体的な負担なくがん治療を続けることが可能だ。「がんが進行し病院から見限られたが治療を諦めたくない」という患者に、最適の治療法だという。

開業当初から約3万6000回もの施術を行ってきたという「大量自家血液オゾン療法」は、以前は、血液クレンジングとも呼ばれた治療法だ。まず患者から100mlの血液を専用の瓶に献血の要領で脱血し、院



三本柱は「がん治療」、「適切で精密な検査」、「エイジングケア」

内で酸素から生成した微量のオゾンガスと瓶の中で触れ合わせる。これにより、免疫力を向上させる物質や抗炎症作用のある物質を発生させた血液を、体内へと戻していく。

「副作用なく、がんの補助療法や抗がん剤の副作用軽減、肝炎・肝硬変、アトピー、喘息など様々な病への効果が期待できます。免疫力は活性化しすぎるとアレルギーのような状態となり臓器にも悪影響を及ぼしますが、オゾン療法は抗炎症効果のあるグルタチオンなども同時に発生するため、免疫を暴走させずに解毒効果が期待できるのです」

他に、副作用の少ない抗がん剤（リポソーム化した抗がん剤、免疫チェックポイント阻害剤「オプジーボ」、自身の血液からNK細胞を取り出し培養・点滴する「NK細胞療法」、抗がん効果が期待できるフコキサンチノール、がん抑制遺伝子点滴治療、など様々なものを揃えている。

点滴治療以外にも、高濃度水素吸入装置、温熱療法「マイクローウェーブ」、サプリメント、栄養療法、海外でがんへの作用が期待され始めている駆虫薬（イベルメクチン、メベンダゾール）の活用など様々な方面からのアプローチを行う。

常に新しい医療の情報を収集し、その中から副作用が少なく継続できるものを導入。患者と疾患の内容、通院頻度、費用感を考え最適なものを提供する同院。

「がんを患った時、絶望してただ最期を待つのではなく、希望を抱くことが回復の可能性に繋がります。命を諦めずに済むよう支えていきますので、標準治療の次の選択肢もあると、覚えておいていただきたいですね」

適切で精密な検査による予防医療や非常に細かい血液検査 自身の身体で効果を確認めた安全のサプリメントの数々

同院の二つ目の柱は、「全ての病気の方、そして発症や再発を恐れる方には必須です」と言う「適切で精密な検査」。各患者にとって必要な検査を行うため様々な検査を用意している。

がんの早期発見を助けるオンコードークレア検査、現状のベースライン基軸値を定めるCTCオンコトレース検査、抗がん剤などに対する感受性を調べ治療法の決定を助けるCTCオンコノミクスプラス検査などのがんに関する検査。他に、重金属やミネラルのバランス検査であるオリゴスキャン、体調管理や食事指導の一環としての遅延型アレルギー検査など、並べれば枚挙に暇がない。

他のクリニックと一線を画するのは、消化器系のがんリスクを遺伝子レベルで評価する「マイクロアレイ血液検査」など、非常に細かい血液検査を行っている点だろう。

「一般の人間ドックよりも細く、通常の血液検査では調べないフェリチンという鉄分の値まで検査します。特に女性は鉄欠乏で体調が悪い方も多いのです」

他に、軽度認知症の検査であるMCIスクリーニング検査も行っている。

「私も検査を受けました。当初の結果は芳しくないD。しかし、食生活の改善やオゾン療法によって、1年程でAまで向上し認知症のリスクが軽減しています。元気なうちに検査を行い、生活習慣の改善に繋がれば、認知症も予防できます。がんも然りで、検査結果を意識した対策が重要です」

三つ目の柱である「エイジングケア」は、サプリメントを中心とした治療。オリジナルサプリメントも用意しており、その一つがシマ桑である。「シマ桑を顆粒にしたもので、糖尿の方には良く効きます。厳選した鹿児島県沖永良部島のシマ桑を使用しているため、時々、現地に様子を見に行っています」

他に古田院長自ら開発したNMN Superもこだわりのサプリメント。NMN（ニコチンアミドモノヌクレオチド）は、長寿遺伝子であるサーチュインを活性化。老化を遅らせ健康寿命延伸の可能性があるという物質だ。世間にはこのNMNを使用した様々なサプリメントが流通している。

「NMNのサプリメントは玉石混合で、どれが良い物が分かりかねました。そのため、自分で間違いない物を作ることを決め、工場やカプセルなど全て自ら確認し製作しました」

NMNは糖尿病と認知症の予防から見出された物質で、「目や髪の毛に対する再生医療的な効果も見込め副作用もありません。がん治療を終えた後のケア、長く元気でいたい方にもオススメです。病気で困っている人たちへも届けて行きたいですね」と古田院長は語った。

NMNなどのサプリメントを始め、同院の治療は全て古田院長自ら使用し確認したものばかり。とはいえ、「サプリメントは飲み過ぎないように生活・栄養指導を行います。薬も同様に、必要のない物は減らす方針です。当院に薬だけの処方『お客さん』はいません」と古田院長。患者の健康にとって本当に必要で安全な治療だけを提供し続けている。

諦めない治療が余命を延伸 病を得たことからメンタルケアの大切さを知る

様々な患者の命を救ってきた同院。以前、肺がんで余命3カ月と診断された80代の女性患者が同院へ訪れ

たことがあった。

「遠方のため月1度の通院。副作用が強く出るため抗がん剤が使えず、低用量の免疫チェックポイント阻害剤とがん遺伝子点滴療法を1年程継続しました。現在は寛解し再発はありません。他にも、余命宣告より遙かに長い間、頑張っている方が多くいらつしやいます。治療の上で大切なのは、1つの治療にこだわるので

はなく反応を見て様々な組み合わせを試すこと。でなければ、がんには太刀打ちできません」

また、昨今は特に、「患者様のメンタルケアに重きを置いている」という古田院長。意識するようになったのは、自身が2024年6月にステージ3の上咽頭がんを患ったことからだという。

「がん予防に努める身です。検査は定期的に行っていました。しかし上咽頭がんは全く想定しておらず、リンパの腫れを風邪のせいだと放置している間に進行していたのです」

この治療のため入院して抗がん剤を3回、放射線治療を合計33回行った。「放射線治療による喉の強い痛みで嚥下ができず、体重が15kgも減りました。今も味覚や嗅覚が鈍り、唾液は減少し、喉の痛みも残ったままです」

がんによる危機からは脱したが、2025年4月下旬から急激に体調が悪化。敗血症性ショック、敗血症性心筋炎、急性心不全を発症し、北里大学救命救急センターのICUに1週間、その後さらに2週間入院することとなる。原因は明らかではなかった。

「命の瀬戸際にある大変な状況で、『あと半日遅れたらもう助か



隅々まで気を配った心安らく院内

らなかった』と言われたほど重症でした。この時に全く動けず喋れない心細い状況や臨死体験のようなものまで経験し、メンタルの大切さを痛感したのです」

命の危機に瀕した大変な事態だが「今思えば患者様の気持ちが良く分かる非常に良い経験でした」と微笑みながら語る古田院長。「この経験を以て、更に患者様の役に立ちたいという使命感に満ちています。心に寄り添ったケアを行っていきたいですね」

YouTube動画の治療法解説に患者の関心が寄せられる 百年健康外来の開設を目指し更なる進化を遂げるふるたクリニック

近年になってオンライン診療も可能になり、「脳梗塞後の後遺症に対する再生医療の点鼻薬を、遠方の患者様へも処方できるようになりました」と、エリアを問わない診療が可能となった同院。YouTubeに治療法の解説動画をアップしていることに加えメールマガジンの配信など、ネットを利用した広範囲への啓蒙も行っている。またネットショップも設けており、シマ桑やNMN Super、消毒液の代わりになるオゾンスプレー、アトピー性皮膚炎などにも効果があるオゾンクリームといった商品も、遠方の患者へ届けている。

「動画は、来院前に見ていただくことで、診察時間の説明を短縮できると考えて始めました。結果的に様々な方にご覧いただき、動画をきっかけに来院してくださる方も増えています。オンラインでの相談もできますので、動画を見て気になることがあれば一度連絡していただけたら」

今後も「副作用で標準治療ができない人たちががんの治療ができるクリニックを目指し、メンタル面のケアも含め元気で長生きできるような診療をしていきたい」と古田院長。健全で長生きできる人々を増やすた

PROFILE

古田 一徳（ふるた・かずのり）

1986年、北里大学医学部卒業 外科入局。
 1987年、長野厚生連 北信総合病院。
 1989年、元 国立小児病院 外科。
 1992年、北里大学外科 助手。
 1995年、新潟中央中央病院 外科医長。
 1997年、前 国立大蔵病院 外科（現在 国立成育センター）。
 1999年、北里大学医学部外科 診療講師。
 2001年、ドイツ ベルリン フンボルト大学 一般・移植外科（短期留学）。
 2005年、北里大学医学部外科 専任講師。
 同年、北里大学外科 肝胆系主任。
 2010年、北里大学外科 准教授。
 同年、北里大学外科 非常勤講師。
 同年、百合ヶ丘にふるたクリニックを開院。

資格・所属

日本外科学会 専門医、日本肝臓学会 専門医、日本再生医療学会 再生医療認定医、日本肝胆外科学会 名誉指導医、日本結核学会 暫定教育医、日本医師会認定産業医。

INFORMATION

医療法人社団ケイイー ふるたクリニック

URL <http://www.furuta-clinic.jp>



所在地	〒215-0011 神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘 1-19-2 司生堂ビル 1F TEL 044-959-5116
アクセス	小田急小田原線「百合ヶ丘」駅 南口より徒歩2分
診療時間	〈月・水〉9:30～13:00、15:00～17:00 〈火・土・日〉9:30～13:00 ※土曜は11:30まで 〈休診日〉木・金・祝
診療内容	内科、外科、がん治療、がん予防、肝臓・胆嚢・膵臓の診断、治療、治療後の経過観察、オゾン療法、高濃度ビタミンC、プラセンタ注射、ニンニク注射、グルタチオン療法、キレーション療法、マイヤーズカクテル、温熱療法、水素吸入療法、水素点滴療法、フラクX点滴療法、各種予防接種
設立	2010年
院長挨拶	院長からみなさまへ 患者さまの声に徹底的に耳を傾け、共感と信頼のもとに、“元気に年を重ねられるようにサポートすること”が、このクリニックの使命（ミッション）であります。少しでも多くの方が、がん、認知症にならず、また寝たきりにならないよう、年を重ねても元気で働いてける社会、環境づくりをするために、今までにない医療サービスを創造し続けるよう、スタッフ一同、精進してまいります。気軽にお声をかけてください。



YouTube では治療法を説明する多様な動画を公開している

め、「百年健康外来」の開設を検討中だ。

「今後は100歳以上の方も増えて行きます。しかし、長寿でも寝たきりではいけないので、健康寿命の延伸に貢献できるようにしていきたいです。90歳以上の健康に過ごしている方々に取ったアンケートで共通しているのは、前向きで精神面のコントロールができていくこと。そして、良く食えること、足腰が強いことです。その理想に近づけるような治療を提供していきたいです。」

新たな取り組みも視野に「今後も様々な面から患者様に寄り添い、クリニックではないような心地よい空間を作りながら、スタッフと共に励んでいきたい」という古田院長。これからも自身の経験や技術、そして多岐にわたる手段を以て患者に寄り添い、命を諦めないための治療を続けていく。